いつ起こるか分からない。いつ起きても不思議がない。それが自然災害です。

昨年十月に発生した新潟県中越地震はわたしたちの記憶に新しいところです。そして、年の瀬には、スマトラ沖地震が発生し、津波による死者・行方不明者の総数が三十万人を超えました。その悲惨な光景は今なお、テレビなどのマスメディアで報道されています。

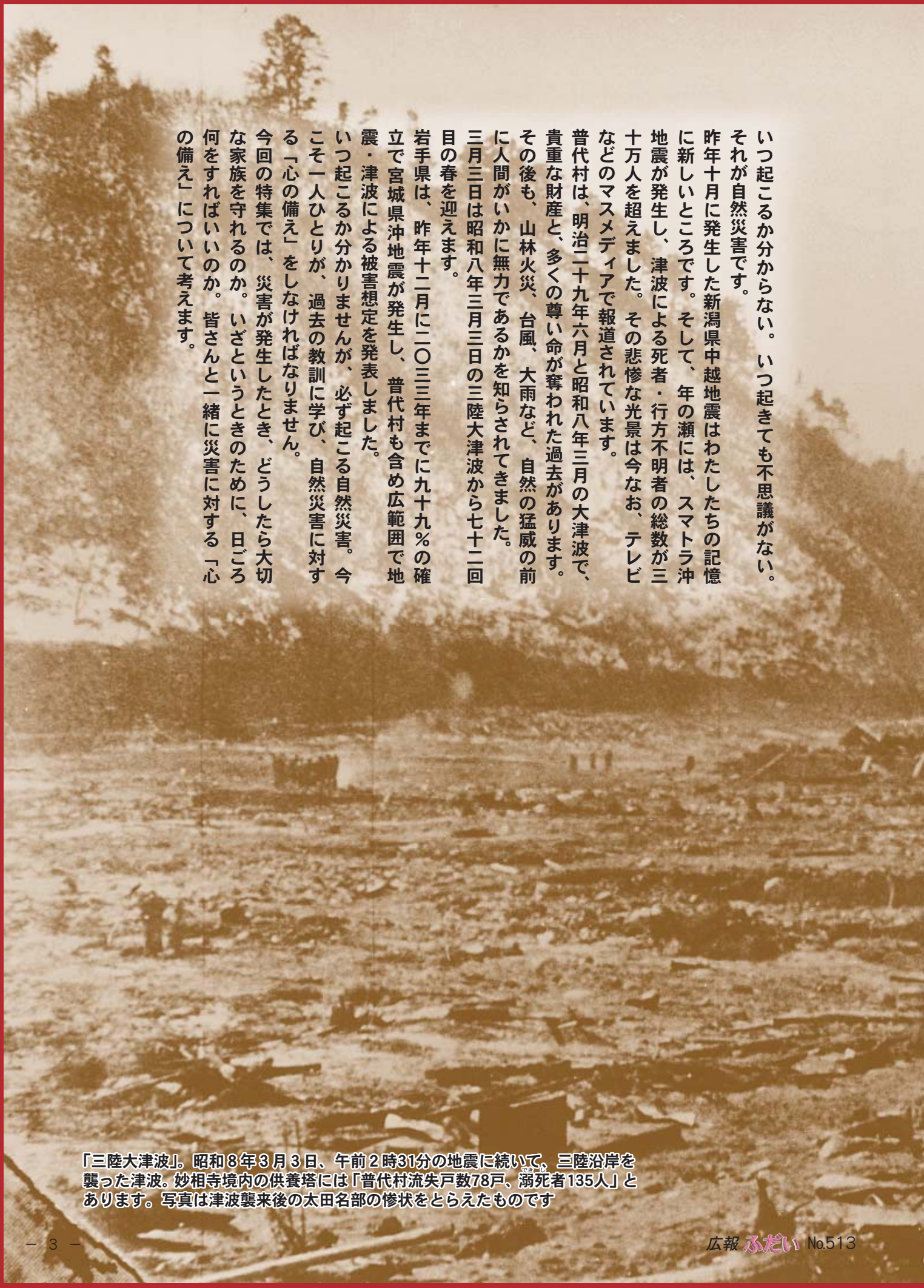
普代村は、明治二十九年六月と昭和八年三月の大津波で、貴重な財産と、多くの尊い命が奪われた過去があります。その後も、山林火災、台風、大雨など、自然の猛威の前に人間がいかに無力であるかを知らされてきました。

三月三日は昭和八年三月三日の三陸大津波から七十二回目の春を迎えます。

岩手県は、昨年十二月に二〇三三年までに九十九％の確立で宮城県沖地震が発生し、普代村も含め広範囲で地震・津波による被害想定を発表しました。

いつ起こるか分かりませんが、必ず起こる自然災害。今こそ一人ひとりが、過去の教訓に学び、自然災害に対する「心の備え」をしなければなりません。

今回の特集では、災害が発生したとき、どうしたら大切な家族を守れるのか。いざというときのために、日ごろ何をすればいいのか。皆さんと一緒に災害に対する「心の備え」について考えます。



「三陸大津波」。昭和８年３月３日、午前２時31分の地震に続いて、三陸沿岸を襲った津波。妙相寺境内の供養塔には「普代村流失戸数78戸、溺死者135人」とあります。写真は津波襲来後の太田名部の惨状をとらえたものです